

第2回 テュッセン財団シンポジウム「メディアと法」

プログラム

9月25日(金) 午前：全体会 (於 大隈小講堂) 責任者：栗城壽夫

9:30－9:35 戸波江二 (日本)「シンポジウムのプログラムの説明」

9:35－9:40 ユルゲン・レゲ (ドイツ)「シンポジウムの開会の辞」

9:40－10:00 塩野宏 (日本)「メディア法における現代的挑戦」

10:00－10:20 クラウス・シュテルン (ドイツ)

「第2回テュッセンシンポジウム「メディアと法」の開会にあたって」

10:20－10:50 許営 (韓国)「法的挑戦としてのメディアのデジタル化」

11:20－11:50 翁岳生 (台湾)

「台湾におけるメディア法の展開についての省察－テレビ法を中心に」

11:50－12:20 浜田純一 (日本)「日本におけるメディアの現況と現代的課題」

12:20－12:50 クラウス・ホプト (ドイツ)「企業の権利保護とメディアの自由」

12:50－13:15 討論

9月25日(金) 午後／9月26日(土) 午前：4部会に分かれての報告・討論

(1) 公法部会 (於 国際会議場 第1会議室) 責任者：西原博史

● 小山剛 (日本)「(未定)」

● トマス・オPPERマン (ドイツ)

「電子プレスは立ち行かない(?)」

－2008年12月18日ドイツラント間の放送変更条約に関する論争について」

● 全光賜 (韓国)「公法の視点からみたメディアと法」

● 許宗力 (台湾)

「台湾におけるメディアの自由

－メディアの脱政治化と意見の多様性確保のための闘争」

● Björn Ahl (中国)「中国におけるメディア規制」

(2) 民法部会 (於 国際会議場 第2会議室) 責任者：植木哲

● 窪田充見 (日本)「メディアと民法－メディアにおける人格権保護に向けて」

● ハンス・ブリュッティン (ドイツ)「インターネット－法的に自由な空間？」

● Jinsu Yune (韓国)

「韓国における名誉毀損についてのポータルサイト提供者の民法上の責任

－韓国の最高裁判所の判例を手がかりに」

● 詹森林 (台湾)「台湾における報道による人格権侵害と名誉・私的領域の保護」

● 齊曉琨 (中国)

「中国における実定法解釈にみる民法上の人格権保護－ドイツ法の展開との比較」

- (3) 刑法部会 (於 国際会議場 第3会議室) 責任者: フィリップ・オステン
- 島田聡一郎 (日本)
「インターネット犯罪
ー刑法解釈学にとっての挑戦～危険予防の手段としての刑罰？」
 - エリック・ヒルゲンドルフ (ドイツ)
「インターネットによるメディア法の新たな挑戦ー概観ー」
 - 金日秀 (韓国) 「現在の刑事政策における厳罰化の基本的潮流？」
 - 葛祥林 (台湾) 「台湾におけるメディアと刑法」
 - 狄小華 (中国) 「中国のインターネット法と法規制についてー犯罪学の視点から」
 - 馮軍 (中国) 「中華人民共和国におけるメディアと刑法」
- (4) 技術部会 (於 国際会議場 第4会議室) 責任者: 山本隆司
- 鈴木秀美 (日本) 「(未定)」
 - Jinae Park (韓国) 「韓国におけるメディア法の現代的挑戦と解決策」
 - 李建良 (台湾) 「台湾における放送制度および放送法制の展開ー規制法の総括」
 - 方小敏 (中国) 「中国のメディア市場における競争法上の基本問題」

9月26日(土) 午後: 総括討論 (於 国際会議場 第1会議室) 責任者: 出口雅久

- 14:30-15:00 今井義典 (日本、NHK) 「日本の国際放送とNHK」
- 15:00-15:30 ラインハルト・ハルトシュタイン (ドイツ、ドイチェ・ヴェレ)
「ドイツ国際放送の役割、意義および立場とその法的構成」
- 16:00-16:20 西原博史 (日本) 「公法部会報告」
- 16:20-16:40 植木哲 (日本) 「民法部会報告」
- 16:40-17:00 フィリップ・オステン (日本) 「刑法部会報告」
- 17:00-17:20 山本隆司 (日本) 「技術部会報告」
- 17:20-17:50 討論
- 17:50-18:00 戸波江二 (日本) 「今後のアジア法研究者の協働の可能性と課題」